

## 2001年12月の大気大循環と世界の天候

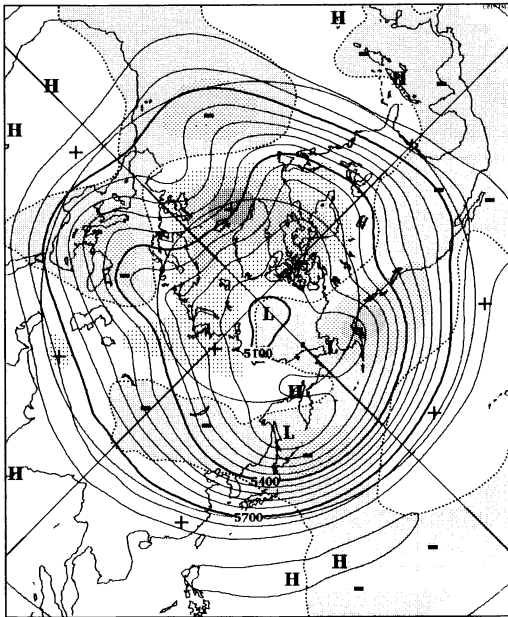
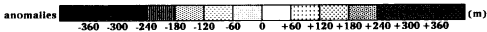
### 大気大循環

北半球500 hPa 高度では、極渦は平年より弱く、カナダ北部からグリーンランド、西シベリアにかけて明瞭な正偏差が分布した。大西洋からヨーロッパ東部にかけて南北蛇行が大きく、大西洋とヨーロッパ東部で明瞭なトラフがみられた。オホーツク海とベーリング海峡付近には低気圧の中心があり、モンゴルから日本の東海上、北アメリカ西岸にかけて負偏差が分布した。

対流活動は、インドネシア東部から日付変更線付近にかけて平年より活発で、特に日付変更線の西側付近では上層雲量指数 (HCLD-DL) が+1.0と、1997年10月 (前回エルニーニョ期間中) 以来の高い値となった。一方、インド洋では南半球を中心に対流活動が不活発となった。対流活発域の東偏に伴い SPCZ (南太平洋収束帯) は東に移動し、かつ平年より活発となった。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図より、対流活発域の東偏に対応して大規模発散域も東に移動し、中心は平年より15度程東に位置した。インド洋赤道域の東西指数 (U200-IN) は+0.7となり、これまでの東風偏差傾向から一転した。

SOI (南方振動指数) は-0.7と負の値に転じた。



2001年12月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は 60 m, 偏差パターン間隔は 60 m. 平年値は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。

### 世界の天候

#### ① 華中の多雨

月降水量は、華中から華南、モンゴル西部から中国北西部で多く、異常多雨となったところもあった。

#### ② 中国北西部の低温

#### ③ インドからアラビア半島の高温

#### ④ ヨーロッパの低温

月後半は強い寒波に繰り返し見舞われ、雪や低温による被害が各地で報じられた。

#### ⑤ ヨーロッパ南部の少雨

月降水量は少ないところが多く、異常少雨のところもあった。

#### ⑥ アフリカ西部の高温

#### ⑦ カナダ東部の高温

#### ⑧ 米国中西部の少雨

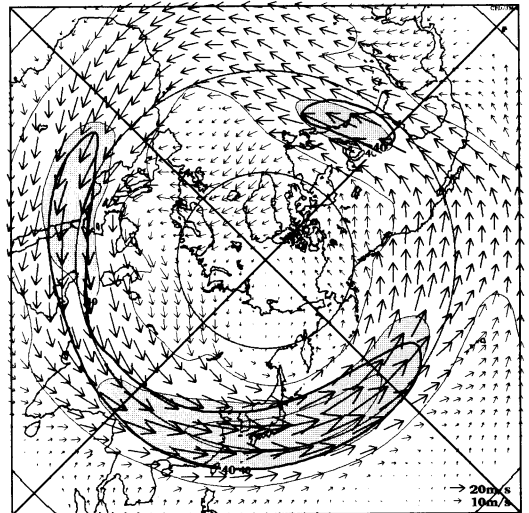
#### ⑨ 中米からカリブ海諸国の多雨

#### ⑩ 南米北東部の高温

月平均気温は南米北部で異常高温となった。

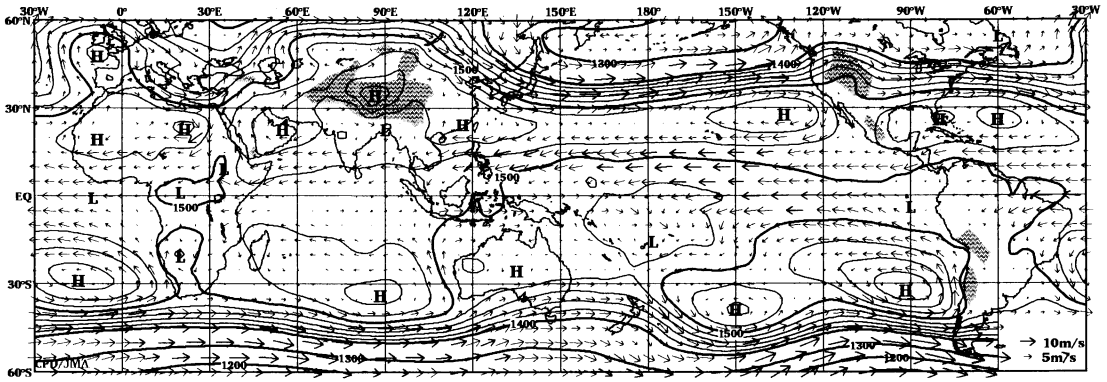
#### ⑪ ミクロネシアからニュージーランドの高温

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 八木昌代)

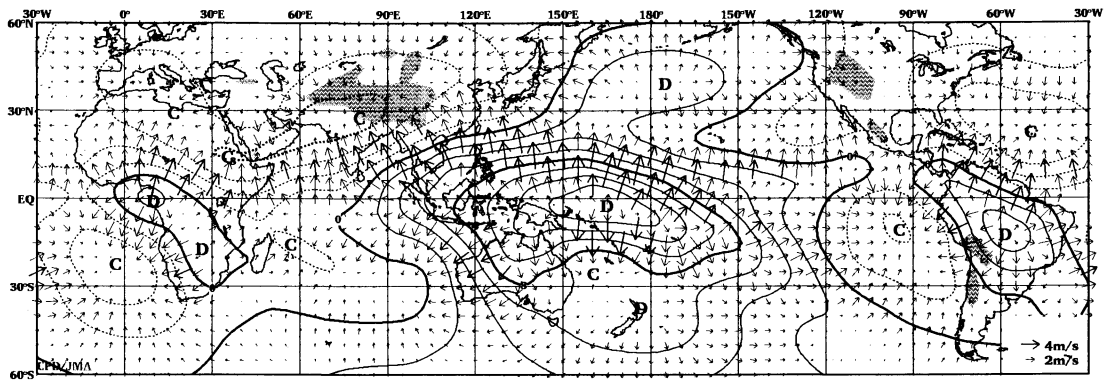


2001年12月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル

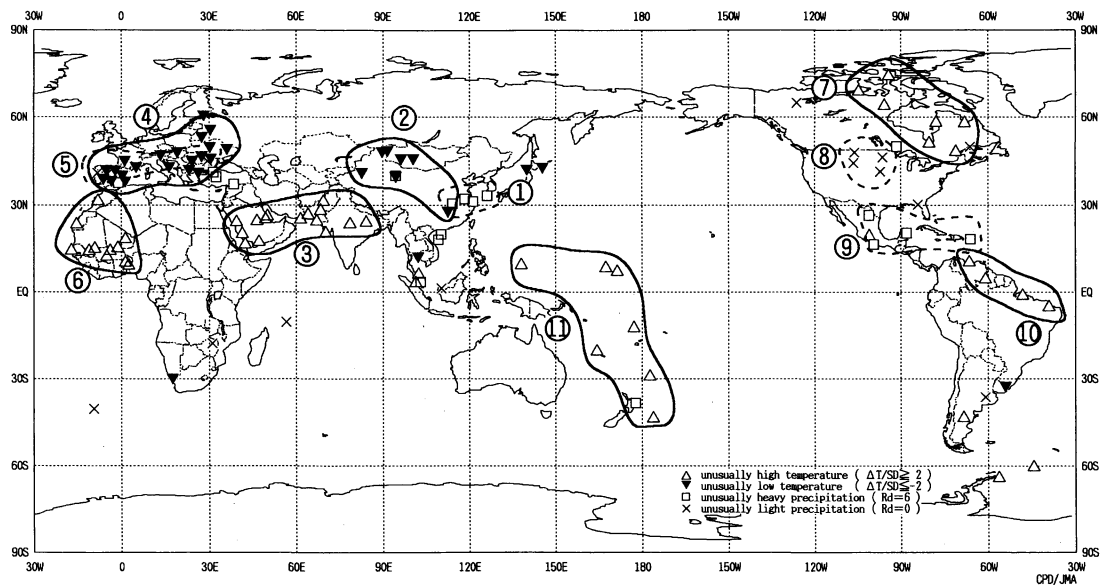
等値線間隔は 20 m/s. 陰影部は 40 m/s 以上. 太実線で囲まれた領域は平年の 40 m/s 以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



2001年12月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



2001年12月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2001年12月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.